

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100814
法人名	株式会社 福岡総研
事業所名	鍋島紀水苑 さくら
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992番地1 (電話) 0952-33-5551

評価機関名	佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 19年11月15日	評価確定日	平成 19年12月24日

【情報提供票より】(19年11月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造ストレート平屋建て		造り
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	74 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえむら病院、森永歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自然環境の中で、季節や文化を通して、感性・感情を呼び起こし、心豊かに過ごし、地域に根づいた生活を支援する」という運営理念の通り、ホームはのどかな田園地帯の一角に建てられ、自然の中でゆっくりとした時間を過ごすことができる。職員は、入居者の意向を尊重し、優しい言葉かけやプライドを傷つけないような配慮を心がけている。季節の行事を大事にし、日々の生活の中にも季節感を感じる事ができるような工夫がなされている。入居者が女性限定という事もあり、食器やランチョンマット、置物などの小物にもこだわり、抹茶を頂く時間やオルゴールを聴きながらのティータイムなど、優雅で上品な、女性らしさを感じるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、市町村との関わりをさらに深める事を改善課題として挙げたが、その後は、ホーム長が随時市役所に出向き、相談や連携を図るよう努めている。また、運営推進会議には市の包括支援センター職員が出席し、意見交換を行い、連携を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価表を、全職員がいつでも見れる場所に置き、評価項目についての勉強会をしたり、スタッフ会議、業務の中で話し合いを行い、改善に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、利用者の状況や、行事等の報告が行われている。また、認知症についての勉強も行いながら、出席者から意見を頂き、サービス向上に努めている。運営推進会議の開催により、地区の区長をはじめ地域との関係がより深まり、防災訓練は地域の方に講師をお願いしたり、地域の方にも参加を呼びかけて開催している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月初めに、請求書・苑便りと一緒に、暮らしぶりや健康状態等の報告の手紙を送し、面会時には、家族と話をし、意見や要望を聞きだすようにしている。また、運営推進会議には、家族に交替で出席してもらい、全ての家族が意見を言える体制をとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年1回の自治会に参加したり、回覧板に苑便りを掲載したりして、認知症の理解を深めるよう働きかけをしている。コンサートや開設記念の行事、防災訓練時には、地域の人々にも参加を呼びかけ、交流の機会を持つよう努めている。近所の方から野菜の差し入れをもらうなど、日常的に地域との交流が図れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然環境の中で、季節や文化を通して、感性・感情を呼び起こし、心豊かに過ごし、地域に根づいた生活を支援する」という事業所独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフ会議や、日々の業務の中でアドバイスをを行い、日常業務に生かしていけるように、常に心がけて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の自治会に参加し、認知症の話をし、理解を深めるよう働きかけをしている。コンサートや開設記念の行事には、地域の人々にも参加を呼びかけ、交流するよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表をいつでも見られるようにホールの棚に置き、評価項目についての勉強会をしたり、スタッフ会議、業務の中で話し合いを行い、改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の状況、行事等の報告、認知症について話し合いを行いながら、意見を頂き、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が、必要に応じて、直接市役所に出向き、相談や問い合わせをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月初めに、請求書・苑便りと一緒に、暮らしぶりや健康状態等の報告の手紙を発送している。職員の異動等については、苑便りで知らせている。面会時には、家族と話をし、個々に合わせた報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族に交代で出席してもらい、意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より、職員の離職は3名程度であり、1～2年以上の職員がほとんどであるため、利用者と職員の馴染みの関係作りはできている。運営者は、職員に随時心配りをし、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は全職員に周知し、希望者がなるべく参加できるように配慮している。職員には資格取得を勧めたり、日々の業務の中でトレーニングし、職員を育てる取り組みを行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、フランチャイズの勉強会や、法人内のグループホームでの相互訪問研修により、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居1ヶ月目は、利用者のペースで自由に過ごして頂き、性格や嗜好を把握するようにしている。そして、徐々に馴染んでもらいながら、安心して生活して頂けるように、家族と相談をしながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活の話をして頂いたり、昔の歌を歌ってもらったりと、利用者からいろんな事を学んだり、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、毎月入居者一人ひとりとゆっくり話をするよう努めており、職員も随時、利用者の思いや意向について関心を払い、しっかり把握している。また、カンファレンスノートを利用し、本人の思いや意向を全職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が、気づきや意見・アイデアをカンファレンスノートに記入し、それをもとに話し合い、計画作成担当者、管理者、本人担当でサービス担当者会議を開催している。本人の意向は、管理者や担当者が代弁し、家族にも文書で計画を確認してもらい計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の目標が達成できているかチェック表を作り、毎日チェックを行っている。基本的には3ヶ月に1回見直しを行うが、期間にとらわれず、変化に応じて随時、本人・家族と話し合い、状況に応じた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	宿泊を伴う外出にも対応している。家族が支援できない場合は、通院や美容室への付き添いも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族が自由に選べるようになっており、できるだけ家族に通院付き添いをしてもらうようお願いしている。必要な場合は、かかりつけ医へ状況報告の手紙を渡して頂き、かかりつけ医との連携を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての指針、同意書を作成し、家族に説明している。かかりつけ医等との繰り返しの話し合いはまだ行われていない。	○	かかりつけ医との話し合いも今後設けられ、本人、家族、ホーム、かかりつけ医のチーム全員で方針を共有していかれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議、連絡帳等で、全職員が常にプライバシー確保の徹底を確認している。写真等の掲載については、家族に確認を行っている。利用者への言葉かけは、その場の雰囲気や本人の性格によって、一人ひとりに合わせた対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや、本人の希望を大切に、居室で過ごしたい方は、居室でゆっくり過ごしてもらっている。ホールで過ごす方が多いため、個々の希望に応じて、レクリエーション等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理によって、食器やテーブルセッティングを変え、盛り付けも工夫し、上品で優雅な雰囲気で食事を楽しめるように努めている。利用者の希望や能力に応じて、盛り付けや片付けを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、利用者の方が毎日の入浴を希望されていないため、月・水・金に全員入浴を行っている。入浴の時間は、夏は午前中、冬は午後と、気温が高く湯冷めしにくい時間帯に入浴してもらっている。その他、随時、希望や必要に応じて入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特技、興味を生かして、ランチョンマットの裁縫、計算ドリル、組みひも作り、生け花などをしてもらっている。また、毎月ホールの壁に、折り紙のタペストリー(壁飾り)を作成し、その方の力に合わせて製作にかかわってもらい、全員での作業も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材等の買い物と一緒に出かけたり、庭先の散歩をしたりと、一人ひとりの希望に添って、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が各居室で過ごされる時間は、居室に鍵をかける事はない。玄関も、日中はほぼ開放しているが、朝の掃除の1時間と、昼食後職員が一人で対応する1時間は、安全確保のために玄関の施錠をしている。	○	運営者も職員も、施錠する事の弊害は十分理解しているが、利用者の安全確保のためには、日中一時的に施錠する事はやむを得ないと感じている。今後は、少しの時間でも鍵をかけないケアについて工夫していかれる事を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	レクリエーションの中で、歩行訓練も兼ねた避難訓練を毎月行い、避難時の誘導や避難経路の確認を行っている。防災の講習会時には、区長の呼びかけにより、地域の方にも参加してもらい、協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム長が栄養士であるため、献立をチェックし、1日30品目の食材を撰るよう心がけている。一人ひとりの状態に応じて、切り方、量、塩分も配慮している。食事や水分の摂取状況は、毎日チェック表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはブラインドを設置し、随時光の調整を行っている。また、ホールの壁には、利用者が折り紙で作った紅葉など、季節を感じるタペストリー(壁飾り)を貼り、テーブルクロスやランチョンマットも時節によって柄を替え、季節感を出す工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自由に家具や仏壇が持ち込まれるようになっており、使い慣れたものに囲まれて、居心地よく過ごせるように工夫している。		